





CVOにスーパーチャージャー付き、これも当たり前なスペックなのです

PMの人気パーツもそのままじゃ使いません。クロムハーツみたいでカッコよらしい

ヨーロッパ製の高品質パーツもデザインの一部にどんどん取り入れてマス



いざショートツーリングへ！ 個性派の車体をオーナーさん見事乗りこなしています



300越えのダイナマイトヒップ連がここでは当たり前のように集まってくる

思いおmoiの個性を与えられたカスタムハーレーが集結。全部現行モデルってのがスコイ

# 目的地は稲妻WEST! フルカスタムだらけのライドインショー。 RIDE IN SHOW

text/竹内淳 photo/S.Ise 伊勢情  
協力/トライヤ TEL072-970-3110 www.triya.com



ハーレーの印象を大きく変えるペイントだってこだわりのデザインであります

LEDカスタムの効果は走っているときほどわかりやすいもの。クール



同じショップのお客さん同士。ツーリング中は会話が弾む。これも楽しみ



イタリアの猛牛を思わせるリア周り。ハーレーの概念を越えたデザインが魅力



走りはパッチリ、の様子はオーナーさんの表情に現れますの図。個性派のフルカスタムをサラッと乗るオーナーさん。お洒落であります



ノーマルからパーツを加えるカスタムにもそれぞれオーナーの個性が光る

走る楽しさはフルカスタムのハーレーだって同じ。カスタムショーに自走でツーリングしていく、そんなショップも増えてきている。ショーの会場に飾られた姿も素敵だけれど、走る姿はもっとス・テ・キ！ だもね。よく、ホントに走るの？ なんて聞く人がいるけれど、「自走で来ました」という事実の前には、そんな質問は意味を持たない。  
大阪の個性派デザイン集団トライヤが目指したのは稲妻ウエスト。集まるハーレーはどれもショップのデザイン力を象徴する個性派ばかり。CVOの110エンジンに加えられたスーパーチャージャーが発するサウンド。フットボードに埋め込まれたLEDの煌めき。飾られたバイクでは伝わらない魅力が周囲を圧倒する。集まったオーナーもそれぞれのカスタムに新たな影響を受けたはず。アメリカのライドインショーの発祥は、イベントまで乗りつけたそのままの姿を見せびらかすことから始まったという。日本でも本物のライドインショーの時代が、すでにやってきているのかもしれない。

イベントへ行って会場で見せびらかし大会。こんなに楽しいコ他にないよね

